

● Product Design

▲ Graphic Design & Media Design

■ Space Design



東海大学国際文化学部

デザイン文化学科

2017年度

卒業研究作品

TOKAI UNIVERSITY

DEPARTMENT OF

DESIGN AND CULTURE

GRADUATION WORKS 2017

2, 3



side table



stool



arm chair



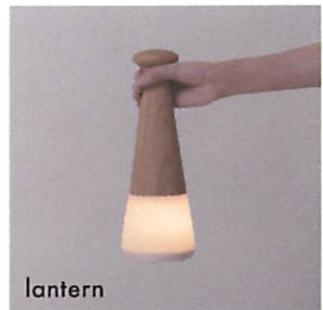
broom set



tool box



tool box



lantern



H  
HANDSHAKE  
furniture

## HANDSHAKE furniture

永く愛用したくなる日用品

大量生産・消費に違和感を覚え、永く愛用したくなるモノを目指した。耐久性だけでなく、愛着がわく要素も重要だと考え、素材の経年変化に着目。使い込むことで現れる色艶の深みと愛着をコンセプトにした「育てる日用品」を製作した。製品には、よく手が触れる部分について触りたくなる形を共通させ、素材には経年変化が顕著なもの用いた。それにより変化が促進され、育てる意識を持ちやすくなることや、使い手の記憶が刻まれることを狙った。手で育てること、受け継ぐことを握手に例え、HANDSHAKE furnitureと名付けた。



城浦 光希 Kouki Shiroura

中尾研究室

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校

## THE SUBJECTIVE IMAGE OF DAILY SCENES



### 線で表現する日常風景

イラストレーションによる人の表現

私たちは普段の生活の中で当たり前のようにたくさんの人々とすれ違ながら生活している。しかし、一種の人間観察のように、あえて人にだけ着目してみたことはあまりないのでないだろうか。本研究では、私が札幌で見かけた人々を、独自のタッチとその場の感覚でイラスト化し、ポスター2種とイラスト集をそれぞれ異なったコンセプトで作成した。この3点の作品で、線画の柔らかさと白黒の世界が生み出すユーモアや日常風景における人の表情の豊かさなどを楽しんでもらうことを目的としている。



武田 淳平 Kouhei Takeda  
伊藤研究室  
旭川実業高等学校



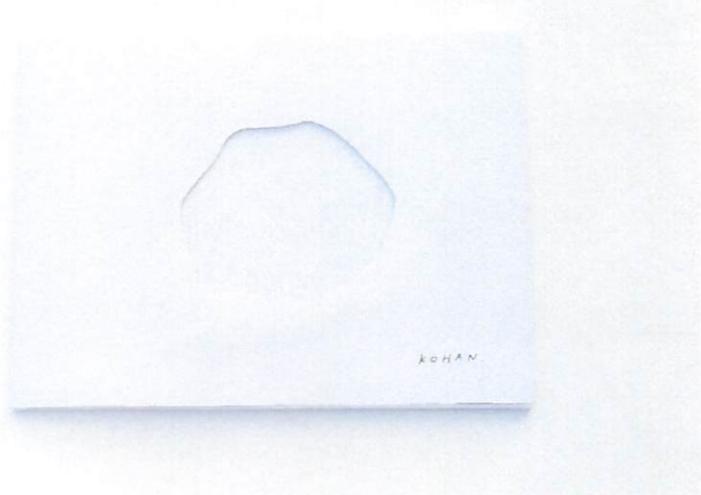
## デパートコスメのブランディング

コンセプチュアルターゲットの視点を通じて

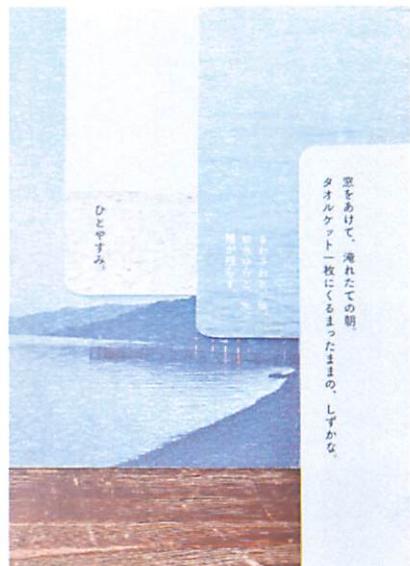
女性は給料日を迎えるとデパートコスメを購入したがる。最近ドラッグストア等で1000円以下でも購入できる化粧品。そして化粧品は日々の消耗品である。こんな状況の中でも比較的高価なデパートコスメにこだわる女性の姿に疑問と関心を抱いた。そこで、給料日を迎えた際にデパートコスメを購入するMさんという女性をコンセプチュアルターゲットとし、彼女のようなキャラクターの 代女性へ贈るデパートコスメのブランディングを行った。またこのブランディングを通じ「なぜ女性はいい化粧品を求めるのか」その本質について研究を行った。



神尾 夢実 Yumi Kamio  
伊藤研究室  
北海道旭川東栄高等学校  
(現 北海道旭川永嶺高等学校)



写真集「湖畔」



ポケット湖畔「ととき」

## 湖畔

### 癒しの「かたち」



湖畔にいる2羽の白鳥をガーネと呼んでいます。会えるのが楽しみなのだ。洞爺湖畔のゆったりと漂う時間を伝えたくて、1年間その見せ方を模索し、「写真」と「言葉」と「綴じること」でかたちにした。その空気のなかで深く呼吸をする感覚を理想に。まっさらな表紙に、湖畔の一瞬が続く。ノートをひらけばいつでも湖畔を感じられる「とき」は紙の質感が生きている。一本一本の線、色、文字、すべてが癒しのかたちの要素である。もちろんガーネもその大切な一員だ。

小山 桃 Momo Koyama  
小川研究室  
東海大学付属第四高等学校  
(現 東海大学付属札幌高等学校)

# ペルソナの視覚化

ポートレイトによる表現



デジタル処理で一人の人間の顔を変形させていくと、全く別の人物像が浮かび上がってくる。それはオリジナルの写真とは全く異なる人柄や背景を想像させ、その人間があたかも本当に存在しているかのように錯覚させる。この方法を用いてペルソナ（人間の外面的人格）をテーマとし、視覚的に表現した。私が意図的に作り出した5つのペルソナ。そこから感じる不穏な気配と、不気味な感覚を感じてもらいたい。



堀口 勇人 Yuto Horiguchi  
伊藤研究室  
北海道滝川工業高等学校

すきなたべもの / カレー すきなもの / 音楽を聞くこと あだ名 / ぐってい 4年間を一言で / 色んな人たちに出会えた大学生活でした

# 女性の育児を手助けする

乳幼児向け液体ミルクのパッケージ



今後女性の社会進出が進むと言われており育児負担の軽減は重要な課題だ。液体ミルクは粉ミルクに比べ手間が少ない等のメリットがあるが日本では解禁されていない。今回は新たな選択肢に気づいていただく事を目的とし女性が魅力を感じるパッケージを制作した。コンセプトは純粋とし「WHITE」というブランドを考案した。赤ちゃんは純粋だ。純粋なものは素直で何にでも染まりやすいと思う。白いキャンバスを水彩絵の具が染まっていく様子でこのコンセプトを表現した。またパッケージだけでなく販促物等も制作した。



島津 知里 Chisato Shimazu  
小川研究室  
北海道札幌啓成高等学校



## こころおぼえ

### 私の心象旅行

身近な人の思い出を知っているようで、実はほとんど知らない。その事に気づいた私はそれをひどく寂しいことではないかと感じた。祖母は一緒に出掛けたとき、料理をするとき、テレビを見るとき、日常のふとしたときにぽつりぽつりと私に思い出を語ってくれる。私はその思い出をもっと知りたいと思うようになり、祖母の思い出の地を巡った。そこで私が見たものや感じたことを、思い出と照らし合わせアニメーションを制作した。この作品を通して身近な人の思い出に触れるきっかけになればいいと思う。



森越 あすか Asuka Morikoshi  
早川研究室  
北海道千歳高等学校



## 「折り」を活かす

平面から得られる立体造形を用いた照明器具

「折り」の魅力をより身近に感じてもらうために、「折り」の技術を用いたシェードを制作した。最初は、様々な材料を多様なパターンで実際に折ってみて、そこから得られたサンプルが何になり得るのかについて観察を行った。最終的には、合成紙であるユポを使い、「折り」から得られる造形の凹凸やそこに透過する光を活かすことのできるシェードを制作することにした。4種類の異なる「折り」のパターンを使った床置き型4個と吊り下げ型1個の照明器具を制作した。日本人が古くから親しんできた「折り」による美しさを伝えられたらと思う。



北畠 歩実 Ayumi Kitabatake  
笹川研究室  
札幌第一高等学校

商業施設技術団体連合会 会長賞

## 食事を楽しむリビングテーブル 団らんのためのかたち



私はダイニングもリビングも家族と過ごす団らんの場であると気づき、食事も楽しめるリビングテーブルを制作した。生活の空間を分けず、リビングとダイニングのテーブルを兼用することで、家具が家族の暮らしの中心となる。L字型のテーブルは、2つを組み合わせることで様々な用途に合わせて使用できる。例えば、お互いの顔を見て食事をする際にはスクエア型に。子供が宿題をしてお父さんが新聞を読む際は縦に長いZ型に。様々な用途で使えることによって、家族が集まる場所になり家族といふ時間、団らんの時間を増やすことができる。



能登 静香 Shizuka Noto  
中尾研究室  
北海道旭川南高等学校

すきなたべもの / カレー、チョコ すきなもの / 花、自然のもの あだ名 / しづか 4年間を一言で / 仲間との出会い

## Paper Globe

気軽につくることで長くつきあうことができる紙の地球儀

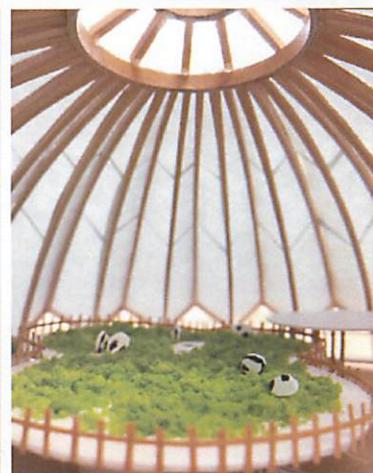
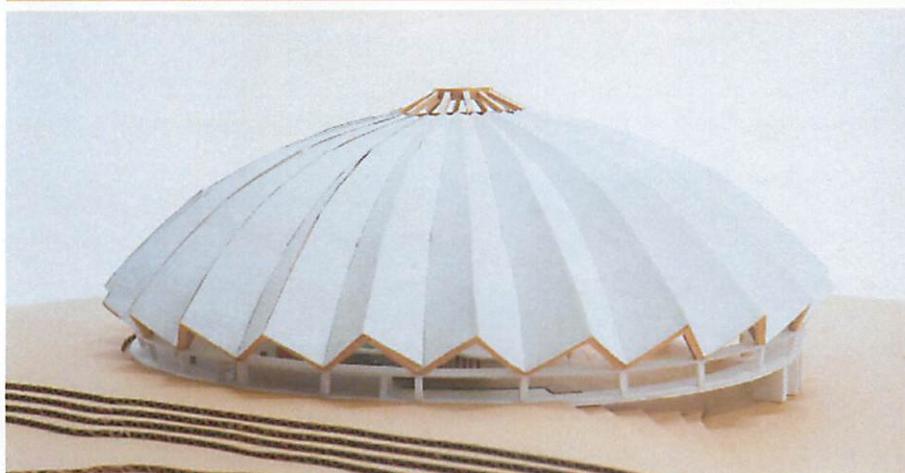


高価・大きすぎ・ネット上のマップを簡単に見ることができるなどといった理由で、昔ながらの高価な地球儀を家庭で目にはすることは少なくなった。しかし、立体的な地球儀だからこそ確認できる事象は少なくないはずだ。そこで、もっと気軽に長くつきあうことができる紙製の地球儀を提案することにした。自分でシートからパーツを切り取り、組み立てて制作するので、壊れたら新しいものを作り直せば良いし、書き込みや色塗りも自由である。種類は3種類(ノーマル、白地図、世界遺産の保有数ごとに色分けした地図)を用意した。



橋部 芽生 Mei Hashibe  
笠川研究室  
東海大学付属仰星高等学校  
(現 東海大学付属大阪仰星高等学校)

すきなたべもの / イチゴ、茶碗蒸し すきなもの / アイドル あだ名 / めい 4年間を一言で / 寒かったです！



## 放牧地の延長線

牛がありのままの姿で過ごせる魅せる木造牛舎

現在、日本の酪農は後継者不足が大きな課題となっている。また、新しく建てられる牛舎の多くはコスト低減や工期短縮のため簡素化され、冷たい印象を受けるものが多い。そこで、新しい牛舎のカタチとしてドーム型木造牛舎を提案する。天候に左右されず、木の温かみのある無柱空間にて、牛の特徴や習性を活かし、ストレスを低限する牛舎を計画した。放牧地の延長線のような牛舎を訪れた人は、ありのままの姿で過ごす牛を目撃の当たりにすることができる、酪農に関心を持ってもらう「きっかけ」となる。



春木 美野 Bino Haruki  
田川研究室  
北海道苫小牧南高等学校



## Thema park of Lifestyle

ライフスタイルを見つめ直す新たな住宅展示場の計画

近年ライフスタイルというワードがよく使われる。独自のライフスタイルを持った生活に憧れる人も少なくないだろう。それを形作る要素として住宅・車・インテリアを中心置いた「見て、感じて、考える」ライフスタイルのテーマパークを提案する。具体的には、ランドマークとなる「センターhaus」と数パターンのライフスタイル住宅を設計した。センターhausには、パーク内で気に入ったアイテムを買えるショップや、イベントスペースなどを設け、気軽に訪れやすい場とした。パーク全体としては街に表情を持たせ、街並みを感じられる計画とした。



金塚 信 Makoto Kanetsuka  
渡辺研究室  
北海道旭川西高等学校

TOKAIUNIVERSITY  
DEPARTMENT OF  
DESIGN&CULTURE  
GRADUATION WORKS 2017

発行日 2018年2月14日  
発行元 東海大学 国際文化学部 デザイン文化学科  
〒005-8601 北海道札幌市南区南沢5条1-1-1  
TEL 011-571-5111  
<http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/sapporo/>